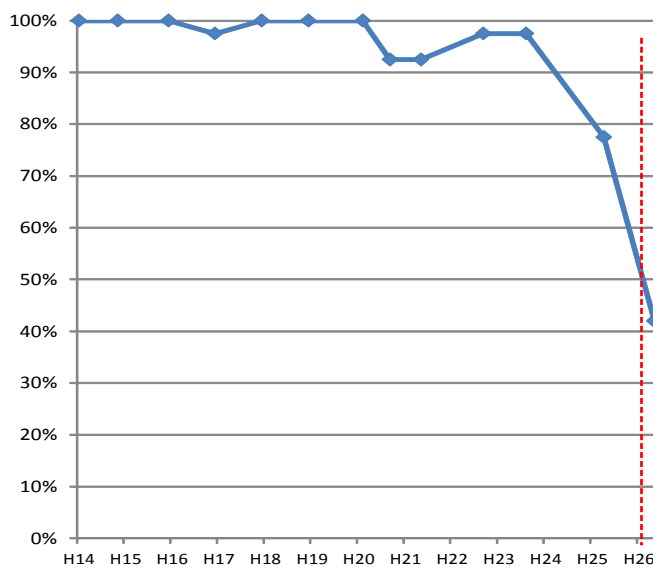


樹種名	チシャノキ	
科 目	ムラサキ科	
学 名	<i>Ehretia ovalifolia</i>	
分 布	本州の中国地方、四国、九州、琉球諸島、国外では中国の低地を中心に分布する。	
樹木特性	半陽樹であり、川沿い等の湿地帯を好み、樹高 15m 程度にまでなる。 成長スピードは遅いことが知られている。 若葉は天ぷらなどにして食べられる。	
用 途	材は黄白色で、建築、家具、器具材として利用の他、樹皮および材から染料をつくる。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	100 本 (他樹種との混植)	
特 徴	【樹 形】 常緑高木であり、樹高は 10~20m になる。 葉は長さ 5~12cm、幅 3~7cm で縁には細鋸歯があり、葉の先端は急に細くなって尖るが、小さな葉ではその傾向はあまり顕著ではない。表面にはまばらに毛があるが、見た目には無毛に見える。裏面は脈上にわずかに毛がある。6 月から 7 月にかけて枝の先端に円錐花序をつける。花は白色で花冠は直径 5mm ほどで、5 裂するものに 6 裂するものが混ざる。 果実は、直径 4~5mm の球形で黄褐色に熟す。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽した直後は活着していたが、植栽後 6 年を経過した頃より枯死が発生した。現存率は 42 %となっている。平成 14 年度に改植し 12 年を経過した平均樹高は 8m 強と成長量は大い。	
被 害	特になし。	

チシャノキ 現存率



【現存率】

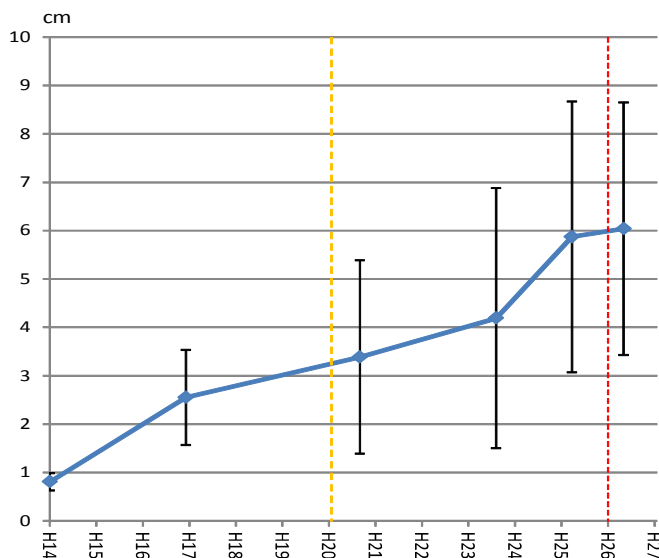
植栽後、6 年以上経過した頃より原因不明の枯死が発生している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 42.0%であった。

さらに、当試験地には自生したチシャノキが 1 本現存しており、生育は非常によい。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

チシャノキ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

順調に成長している。

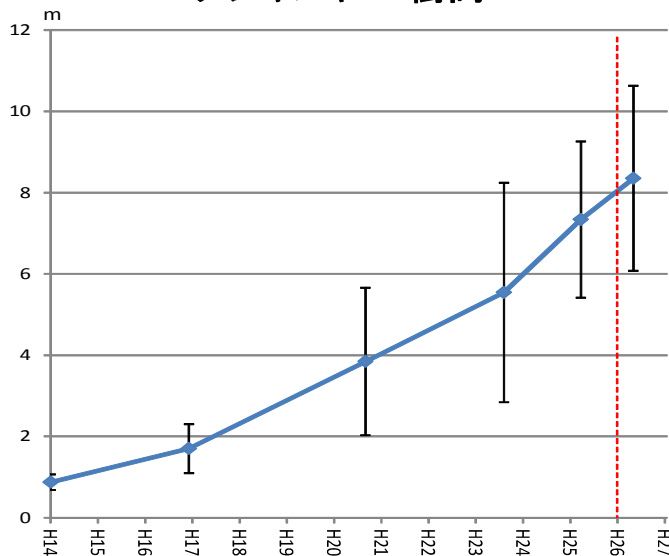
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 6.04 cmであった。

さらに、自生しているチシャノキ（1 本）の胸高直径は 18.40 cmであり、植栽木より大きい。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

チシャノキ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 8.35m であった。

さらに、自生しているチシャノキ（1 本）の胸高直径は 11.48m であり植栽木より高い。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》

和名は、若葉の味がチシャに似ていることから。また、樹皮や葉がカキノキに似ていることから、カキノキダマシともいう。

エゴノキ科のエゴノキもチシャノキといわれ、歌舞伎（かぶき）『伽羅先代萩（めいぼくせんたいはぎ）』に出てくるチシャノキはエゴノキのことである。チシャノキ属は世界の熱帯を中心に約 50 種ある。